

都市再生整備計画

えびなえきしゅうへん
海老名駅周辺地区
(第4回変更)

神奈川県 海老名市

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	神奈川県	市町村名	海老名市	地区名	海老名駅周辺地区	面積	63.3	ha							
計画期間	平成	29	年度	～	令和	3	年度	交付期間	平成	29	年度	～	令和	3	年度

目標

海老名駅を中心とした東西一体のまちづくりの進捗及び相模鉄道海老名駅改修事業に合わせ、海老名駅の交通結節機能の強化と安心・安全・快適な歩行者ネットワークの構築を推進し、賑わいと活力、そして誰もが活動しやすい魅力的な都市を目指します。

- ①海老名駅の交通結節機能の強化
- ②地区内の自然・歴史・文化等の観光資源を有効活用し、中心市街地の新たな魅力の創出と歩行者回遊性の向上

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
本市では、総合計画で目標都市像として掲げた「快適に暮らす魅力あふれるまち海老名」の実現を目指し、充実した鉄道網と拠点駅周辺に都市機能を集積することで、コンパクトなまちづくりを進めてきたことから、海老名駅を中心として、周辺の宅地開発のなかで形成された住宅地が公共交通で繋がる都市構造となっており、市全体の人口は年々増加している。
しかしながら、将来的には人口減少へ転じることが予測されることから、人口減少の到来に備え、早期の現段階から、豊かで快適な暮らしを支える居住環境と都市機能のコンパクト化を図り、持続可能な都市経営の実現と、コミュニティが維持できるまちづくりを推進していく。

まちづくりの経緯及び現況

海老名駅周辺地区は海老名市都市マスタープランにおいて、「都市交流拠点」と位置付けられており、商業や業務、行政サービス、生涯学習・文化、医療・福祉等の様々な機能が集積し、多くの人が集まり交流する地区とし、海老名駅が本市の玄関口及び中心市街地として、ショッピングやレクリエーション機能、業務機能を備えた、賑わいのある商業業務空間を舞台に「人・物・文化」が交流する、都市機能の中心核としての役割を担うこととしている。
また、国の人口は少子高齢化により平成17年をピークに減少しているものの、海老名市の人口は昭和46年の市制施行から着実に増加をたどり、現在も微増を維持し、令和7年の目標人口を140,000人に設定している。

昭和48年に小田急線海老名駅が現在の位置に移転したことに端を発し、以降、民間開発事業者を中心に市街地整備が進み、その進捗に合わせ行政側による都市基盤施設の整備を進め、現在の中心市街地の骨格が形成されている。
平成14年には海老名駅東口に大型ショッピングモールの「ピナウォーク」が開業し、平成27年秋に海老名駅西口地区のまち開きと駅東西を結ぶ自由通路が完成し、現在は海老名駅駅間地区のまちづくりが進んでおり、まちの拡大と変革が行われてきた。
さらには、令和3年度に相模鉄道海老名駅の駅舎改良が予定されており、新たに設置する北口の開設を控え、周辺地区の土地利用の促進も検討している。

海老名駅は小田急電鉄、相模鉄道、JR相模線の3線が乗り入れる県央地区の交通の要衝であることの高い利便性及び近隣の綾瀬市や愛川町に鉄道駅が無いことから、鉄道からバス・タクシー・自家用車などの乗り換え拠点としての機能も受け持っており、交通結節点としての機能性と市街地開発による新たな魅力づくりに裏付けられ、市民はもとより、さらに広範囲な近隣市町からも来街し、まちの賑わいがさらに増してきている状況にある。
また、道路環境においては、平成22年度の圏央道海老名IC供用開始、平成27年度に圏央道神奈川県内全線開通となり、高速道路アクセスが大幅に向上したことから、海老名駅周辺地区への高速バス路線乗り入れや観光ツアーの発着点としてニーズが高まっている。
その他、当地区の魅力の一つとして、駅からの徒歩圏に国指定史跡「相模国分寺跡」や関連する歴史資産がある。史跡整備の進捗に伴い、見学の問い合わせが増加傾向にあり、相模国分寺跡を中心とした歴史資産の一層の活用が求められている。
課題

- ・海老名駅は鉄道3線が乗り入れるものの、鉄道軌道により“まち”が分断されていることから、各駅口(東口、西口、北口)の機能分担が必要とされている。
- ・駅利用者のキスアンドライドによる駅前交通広場の混雑が発生し、公共交通機関の運行に支障を来している。
- ・自然・歴史・文化等の観光施設の活用が不足している。
- ・駅への車両集中による道路混雑や歩行者との交錯による交通障害と安全な歩行空間が確保できていない。
- ・駅周辺施設におけるバリアフリー化、防災機能の充実が必要とされている。

将来ビジョン(中長期)

海老名市では、都市マスタープランにより、まちづくりの目標を以下のとおり定めております。

- 【基本目標1】まちの賑わいや元気を実感できる都市
- 【基本目標2】安全で安心感のある都市
- 【基本目標3】誰もが暮らしやすさを実感できる都市
- 【基本目標4】自然や歴史の魅力があふれる都市

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

海老名駅周辺を、本市の玄関口及び中心市街地として、「人・物・文化」が交流する都市拠点として位置づけ、商業・業務、文化レクリエーション等の機能集積を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

海老名駅のさらなる利便性の向上のため、相模鉄道海老名駅の駅舎改良にあわせ駅前広場等の整備を図るとともに、魅力的で居心地の良い居住機能を強化し、新たな魅力の創出と歩行者回遊性向上のため、地区内の自然・歴史・文化等の既存ストックを活用した快適な都市空間の形成を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
市民生活の利便さ・満足度	%	市民(国分地区)の最寄り駅へのアクセス	海老名駅までの移動距離の短縮による歩行者の快適性の向上	65	H28	81	R3
地区内案内設備に係る市民満足度	%	海老名駅周辺地区における案内・標識の整備	誘導施設の整備による回遊性の向上	74	H28	93	R3
自然・歴史施設の有効活用	人／年	温故館の利用者	案内・誘導施設の整備により、歴史・自然施設が有効活用される	9,334	H28	10,739	R3
防災対策に係る市民満足度	%	海老名駅周辺地区における防災対策の充実	災害対策機能を備えたエレベーター整備による満足度向上	56	H28	62	R3

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> 海老名駅の交通結節機能の強化 	<p>【基幹事業】 道路:海老名駅北口駅前交通広場整備事業(車道部) 地域生活基盤施設(広場):海老名駅北口駅前交通広場整備事業(広場部) 高質空間形成施設:海老名駅駅間エレベーター整備事業 海老名駅駅間車寄せ整備事業</p> <p>【関連事業】 相模鉄道海老名駅舎改良事業</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地区内の自然・歴史・文化等の観光資源を有効活用し、中心市街地の新たな魅力の創出と歩行者回遊性の向上 	<p>【基幹事業】 地域生活基盤施設(広場):海老名駅北口駅前交通広場整備事業(広場部) (情報板):文化財案内板等整備事業 (情報板):公共施設案内板等整備事業 高質空間形成施設:海老名駅駅間エレベーター整備事業 海老名駅駅間車寄せ整備事業</p> <p>【関連事業】 相模鉄道海老名駅舎改良事業</p>
<p>その他</p>	
Empty space for other items	

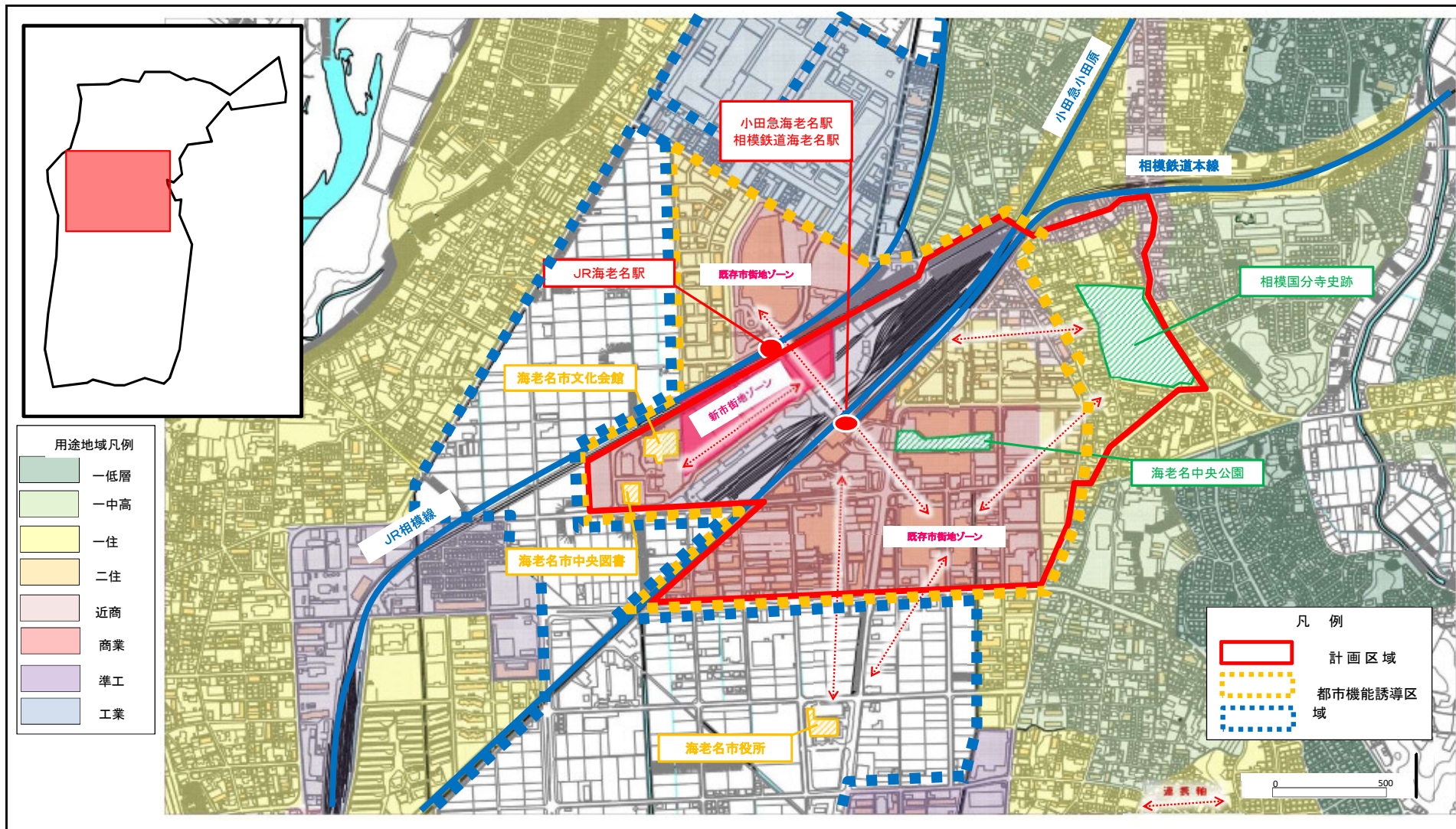
海老名駅周辺地区（神奈川県海老名市）

面積

63.3 ha

区域

海老名市中央1～3丁目、国分南一丁目の一部、国分南二丁目の一部、国分南三丁目の一部、国分北一丁目の一部、国分北二丁目の一部、上郷の一部、扇町の一部



海老名駅周辺地区(神奈川県海老名市) 整備方針概要図(都市都市構造再編支援事業)

目標	海老名駅の交通結節機能の強化と安心・安全・快適な歩行者ネットワークの構築を推進し、集約型都市構造に向けた賑わいと活力、そして誰もが活動しやすい魅力的な都市づくり	代表的な指標	市民生活の便利さ・満足度 (%)	65	(平成28年度) →	81	(令和3年度)
			地区内案内設備に係る市民満足度 (%)	74	(平成28年度) →	93	(令和3年度)
			歴史・自然施設の有効活用 (人/年)	9334	(平成28年度) →	10739	(令和3年度)

